

令和 元 年度 我(和)がまちづくり
(いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業)

活動報告書

のとじまの「生活」を魅せる
「まあそいマルシェ」
プロジェクト



能登島ペスカグリ・ネットワーク

1. 事業概要

■概要 能登島内外の生産者や事業者を集めて毎月定期的に「まあそいマルシェ」を開催する。毎月テーマを決めて、テーマに沿ったブースを各店に出店してもらい、運営はそのための準備や設営を行い、出店者の交渉も行う。具体的には10店舗前後を統一感のあるテントで並ばせ、能登島産中心の野菜・加工品などの販売ブース・飲食ブース・体験ブースで構成するイベントを実施。

■開催日 令和元年 6月30日(日)
7月28日(日)
8月25日(日)
9月22日(日)
10月27日(日)

■開催時間 9:00 ~ 15:00

■場所 (6月、9月、10月) 向田町集会所
(7月、8月) 道の駅のとじま 芝生広場

■主催 主催 能登島ペスカグリネットワーク 生産加工部門 田口千重
事務局補佐 出島この美

■参加者 推定来場者：約610名、関係者：各回約20名

2. 活動目的

能登島の魅力的な資源を地元の人たちと一緒に創造的に開発しながら収益にしていく能動的なネットワークを形成する場を創設する。そこには能登島に住む人、訪れる人も楽しめるような仕掛けを作り、やがては自分たちの「生活」の一部となるような将来性のある仕組みを作ることを目指す。

3. 開催記録





① まあそいマルシェ第一回目 テーマ「能登島の海塩」

概要：塩にちなんだ商品などを各店が準備して販売

開催日：令和元年6月30日（日）

会場：向田町集会所

参加者：来場者 約100名、出店店舗 13店舗（委託販売：6店舗）

時間	内容
8:30	<p>(1) 準備</p>  <p>悪天候のため、場所を道の駅から室内でできる集会所に変更した。初めての開催のため、準備にあわただしくなる集会所内。</p> <p>▲向田集会所での準備の様子</p>
9:00	<p>(2) マルシェオープン</p>  <p>集会所和室スペースの様子：ワークショップブースが人気 外は荒天だったので来場者がほとんどいないのではないかと心配していたが1回目には多くの人に来てくれた。客層はほとんど能登島向田町周辺の住民。</p> <p>▲和室の様子。真ん中のスペースがワークショップとなっている</p>  <p>▲飲食店エリア</p>  <p>▲クラフトスペースで半纏の試着をする来場者</p>
15:00	イベント終了

② まあそいマルシェ第二回目 テーマ「暑いときに食べよう！夏野菜」

概要：夏野菜や夏野菜をつかった商品などを各店が準備して販売

開催日：令和元年7月28日（日）

会場：道の駅のとしま 芝生広場

参加者：来場者約80名 出店店舗 13店舗（委託販売：6店舗）

時間	内容
8:30	<p>(1) 準備</p>  <p>▲夏野菜に合わせて中能登の農業団体が焼きともろこしを販売</p> <p>屋外での初の開催。テント設営を設営委託者に頼んだが、猛暑のため、準備が遅れる。気温は35度を超え出店者にもつらい天気だった。</p>
9:00	<p>(2) マルシェオープン</p>  <p>▲屋外での開催。テントの準備に追われる</p>  <p>▲能登島の農業団体「ベジママ」</p>  <p>▲のとしまバトンケーキ新発売！！</p> <p>季節の商品、能登島産の桃はすぐに完売となった。また、新しく能登島地域づくり協議会が販売を開始した「のとしまバトンケーキ」もはじめてお披露目した。</p>
15:00	イベント終了

③ まあそいマルシェ第三回目 テーマ「BE COOL 冷んやりしましょう」

概要：冷たい飲み物やスイーツなどを販売

開催日：令和元年8月25日（日）

会場：道の駅のとじま 芝生広場

参加者：来場者 約80名、出店店舗 10店舗（委託販売：6店舗）

時間	内容
8:30	<p>(1) 準備</p>  <p>朝の準備にゲリラ豪雨が降り、準備が遅れる。すぐ収まったがこの後も数回降り、布モノを販売している人は困っていた…。しかし、気を取り直し再開。</p> <p>▲並べ方を変え駐車場から見えるように配置</p>
9:00	<p>(2) マルシェオープン</p>  <p>気温は比較的低温、この日は出店者も笑顔で接客。それぞれに冷たいスイーツやフルーツを用意して販売していた。特に上林のお茶のタピオカドリンクが若い人に人気があった。</p> <p>▲能登島協議会長によるサザエの炭焼き</p>  <p>▲テーマに合わせてタピオカドリンクを販売する上林のお茶</p>
15:00	イベント終了






④ まあそいマルシェ第四回目 テーマ「新米とご飯のお供大集合」

概要：新米のご飯ものやそれに合ったお供の販売

開催日：令和元9月22日（日）

会場：向田集会所

参加者：来場者 約150名、出店店舗 14店舗（委託販売：4店舗）

時間	内容
8:30	<p>(1) 準備</p>  <p>台風予想であったため、場所を1週間前に向田集会所に変更。当日は風が強く、テントもすべて屋内に配置。</p> <p>▲旬のフルーツぶどうを販売するスギヨファーム</p>
9:00	<p>(2) マルシェオープン</p>  <p>▲能登島の陶芸工房・独歩炎の土鍋</p>  <p>▲鳥居醤油のご飯のおとも</p>  <p>▲親子連れがゆっくりと滞在してくれた</p> <p>能登デザイン室と独歩炎（能登島出身の陶芸家）のコラボ土鍋や、七尾市の有名老舗店「鳥居醤油店」と中能登の農業団体「能登やまびこ」のコラボなど、テーマに合わせて各店で新しい組み合わせが生まれた。</p> <p>外は台風にも関わらず、多くの人に来てもらった。また、室内のため落ち着いて販売できて良いという意見が多かった。和室はいい雰囲気であった。</p>  <p>▲ガラス工房講座生の新米たち</p>
15:00	イベント終了

⑤ まあそいマルシェ第五回目 テーマ「秋のスイーツ！」

概要：地元産秋の野菜を使ったスイーツの販売。

開催日：令和元 10 月 27 日（日）

会場：向田集会所

参加者：来場者 約 200 名、出店店舗 14 店舗（委託販売：8 店舗）

時間	内容
8:30	<p>(1) 準備</p>  <p>▲集会所玄関の様子。</p> <p>前回の盛況を受けて初めから向田集会所開催でアナウンス。前を通る車から見ても何をやっているか分かるように垂れ幕を玄関に掲げた。</p>
9:00	<p>(2) マルシェオープン</p>  <p>▲焼き芋機で焼き芋の販売。</p>  <p>▲生蕎麦棍のイチジクタルト</p>  <p>▲はいから食堂の安納芋のブリュレ</p>  <p>▲和気あいあいとした雰囲気の屋内</p>
15:00	イベント終了

4. 事業の成果

参加店舗は合計のべ64店舗（委託販売店は含めず）、来場者数は合計610名となり、当初の目的であった島内外の事業者同士の交流の場となったと思っている。出店者の内訳はコンスタントに島内数店舗が毎月参加し、あとはテーマに合わせて入れ替わり、七尾市以外では中能登町、遠くは羽咋市や富山県氷見市の事業者が参加してくれた。開催中は時間を見つけて、それぞれが関心のあるブースを訪れ、商品を手にとることから自然と会話が生まれ、お互いの情報を交換する交流の場となっていた。こちらから何かきっかけを作るというより、自然とそのような交流が生まれ、来場者だけでなく出店者もわくわくするようなイベントになったと思っている。

5. 参加者の声（感想・意見など）

自分の売り場にとどまっている人は少なく、「他のブースが何を売っているのか見るのが楽しい」と好評であった。他にも「グループのみんなで旅行に行くためのお金が集まった」と島内のお母さんたちの農業グループに喜ばれた。来場者も「能登島のおじいちゃんが作った鞆が買えて良かった」という意見や、「インスタを見て来た」という若い女の子たちのグループや、能登島の住民も「久しぶりに島内の人に合わせていっぱい喋れて良かった」という意見が多かった。島内外の方々に喜んでもらえたと思っている。

6. 課題

課題としては、来場者を増やして、最低限、運営メンバーの人件費を捻出できるくらいになるまで各店舗の売り上げを上げることである。また、「まあそいマルシェ」としての認知度が上がってくれば能登島の東や西エリアで開催し、車で行けない住民にも来てもらえるようにしたい。

7. 今後の活動予定

今後は毎年続けたいと思っており、11月22日（金）にマルシェの振り返り会を行い、来年は3月～10月の間で月1回開催することを決定した。毎月やりたいという意見もあるため、そういった意見に応えられるよう、「まあそいマルシェ」の認知度が広め、多くの人が気軽に訪れてもらえるマルシェにしていきたい。



▲11/22 振り返り会議の様子

8. おわりに

現在、地方は過疎化し、少子高齢化が年々進み、能登島もその例にもれず、どんどん人口が少なくなっています。それでもそこに住む人々は活気があり、都市圏の人がうらやむような豊かな食事、美しい景観、濃い地域のネットワークの中で生活をしています。そのような能登島という場所の魅力を、訪れた人にもわかりやすく知ってもらいたい、そうして能登島でお金を落としてもらい、この能登島にのこる味わい深い風土を後世にも残したいという思いから多くの人が能登島で活動しております。「能登島ペスカグリ・ネットワーク」もその取り組みの一環であり、そこから有志で能登島の魅力をぎゅっと集めたマルシェを開きたいという意見が出たことがきっかけで現在に至ります。

この活動が実現できたのはひとえに周りの皆様のおかげでした。「能登島ペスカグリ・ネットワーク」の代表やメンバーに多くの支援や協力をいただきました。また、能登島地域づくり協議会センター長様や事務局の皆様にもご尽力いただき、そのほかマルシェに賛同してくれた多くの能登島の飲食店、農家、作家、事業者の方々が入れ替わり立ち代わり参加していただき、毎月変化するマルシェの味わいとなりました。また、場所を貸していただいた道の駅のとじま、向田町内会の皆様にも多くのご協力をいただき、本当に感謝しております。

そして何より、この「我（和）がまちづくり」に採択されたことで「まあそいマルシェ」のコンセプトに沿ったデザインづくりや住民たちの認知度を上げる為の活動の資金ができ、本当に感謝しております。この採択がなければ、今よりもっと困難な状況であったことが想像できます。

参加された出店者や来場者の皆様が笑顔でマルシェに参加されているところをみて本当にこのマルシェを開いてよかったと思っております。今後も地域のためになる活動を続けて行く所存です。本当にありがとうございました。



▲ 地元イラストレーターに作成してもらった「まあそいマルシェ」通年のポスター、のぼり旗、チラシ。作成にはミーティングを重ね、能登島の優しい雰囲気伝わる可愛いデザインとなった。